図エ・美術部会

I. 研究の概要

1. 研究主題 「子どもが自分の『よさ』や『できる』に出会う授業づくり」 ~「考え」「つくる」を行き来し、子どもたちの個性と向き合う~

2. 研究主題設定の理由

53次と54次の2年間の研究では、学習のねらいを明確にすることで、目的意識を持って授業に参加する 心情を育む研究内容となった。子どもが主体的に授業や教材と向き合い、豊かな発想・構想を引き出すため の「技能」を獲得することで、それらを実現するための研究内容とした。身につけた技能を活かして、自分 らしい表現にまで深めることができた子どもが多数いたことは、大きな成果であった。また、新学習指導要 領の実施に向けて、教科としての特性を踏まえ、改訂部分を意識した教材や授業展開などが積極的に実践 されたことは大きな成果と言える。

55 次の研究では、新学習指導要領に基づいて、研究主題や内容を立ち上げた。改訂の要点として「育成 すべき資質である三つの柱~『知識及び技能』『思考力、判断力、表現力等』『学びに向かう力、人間性』」 そして「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わることや、物事を捉える視点や考え方を働かせること」 が示されている。全課程を通して、つくり・つくりかえ・つくる活動を保障することから、自分だけのよさ や個性にあふれる作品を生み出すことができる授業づくりの研究を行う。また、「もっと、こうしよう」と いう向上的で創造的な意志や意欲が学びにつながり、自らの生活を楽しく豊かにしようとする人間性へと つながってくる、学びの「出口」を明確にした授業づくりの研究を進めていく。

3. 研究仮説 可能性を模索する図工・美術の授業に向かうことで、子どもたちは、思いの実現に近づく ことができるだろう。

4. 研究内容、

【研究内容1】

子どもが、創造的な発想・構想 を持つために

(A) 創造的な発想・構想が生 まれる授業づくり

2020年度の重点

【研究内容2】

子どもが、思いを可能にするた めの技術を身につけるために

(B) 工夫が繰り広げられる表 現活動

【研究内容3】

子どもが、全課程を通して、よ さや美しさを感じとれるために

- (C)満足感や達成感が持てる 表現活動
- (D) 思いを読み取り、伝える 鑑賞活動

【育みたい力】題材のねらいと関連させ、育みたい力を押さえた上で授業づくりを進める

評価の観点	具体的な児童生徒の動き
関心・意欲・態度	1. 楽しむ 2. 進んで活動する 3. 追求する 4. 練る 5. 満足する
発想・構想の能力	6. 広げる 7. 深める 8. 見通す 9. 比べる
創造的な技能	10. 選ぶ 11. 決める 12. バランスをとる 13. 使う
鑑賞の能力	14. 感じとる 15. 味わう 16. 創造する 17. 受け入れる

5. 研究方法

- (1) 市町村部会員相互の協力・協働による研究実践となるよう推進するとともに、事務局は各市町村部 会の主体性を尊重しつつ連携を深める。
- (2) 専門部会第二研究協議会での全体会・分科会のもち方は、部会員への意識・意欲の向上が図られるよう工夫する。 (3) 研究主題に迫るための理論研修会を開催する。研究主題への一方的な迫り方ではなく、幅広い見方 や考え方ができるよう内容を検討し企画する。
- (4) 材料・用具・技法・指導法に対する見識を深め、指導力量の向上を図るとともに、題材について子 どもの視点から考えることのできる場として、実技研修会を開催する。

Ⅱ.実践研究の経過と成果

- 1. 実践研究の経過
- (1) 研究経過・研究成果
 - ○今年度は実践研究や授業での工夫をレポート形式で交流した。

(2) レポートの具体例①

小学3年生 学校名:恵庭市立若草小学校 指導者:村井 宏子・本間 洋子

題材名: 森のひょうほん箱

時間:4時間

テーマ区分:5

【題材のねらいや工夫】

・学校の自然物(葉っぱや枝、木の実など)を使って、自分で考えたオリジナルの虫をつくる。

【具体的な指導内容、留意点】

- ①「森の標本箱」の本を紹介し、自然物を使って自分で考えたオリジナルの虫を作るイメージを広げる。
- ②葉っぱや枝、木の実を拾いに行く。
- ③拾ってきた自然物を使って、組み合わせを工夫しながら、楽しくて、おもしろくて、不思 議な虫をつくる。
- ④つくった虫を交流する。

【成果と課題】

- ・ちょうど理科で、昆虫の学習をしていた時だったので、虫をつくることを話したら大変喜んだ。また、みんなで学校の周りを散策しながら、自分で葉っぱや木の枝などを拾ったので、材料集めからわくわく感が高まった。教材費、0円!これが一番!
- ・自然物を拾いながら、「これ○○になるね」「この葉っぱ○○に見える」と、友達同士会話 することで、つくりたいもののイメージが持てた。
- ・組み合わせを工夫したり、大きさを変えたりすることで、試行錯誤することで、自分が作りたい虫になっていった。
- ・自然物の接着に苦労した。今回は、木工用ボンドと、Gクリアを使用した。

(3) レポートの具体例②

小学6年生 学校名:江別市立野幌若葉小学校 指導者:竹田 睦生

題材名: 全校元気プロジェクト 「ソーシャルディスタンスアート」

時間:3時間

テーマ区分: 4

【題材のねらいや工夫】

- ・表現と鑑賞が離れた場所にいる人を結び付けたり、交流を促したりする力がある事に気付く。
- ・表現することが未来を想像させたり、「こんなふうになったらいいな。」という願いを生んだりするきっかけとなる事を知る。

【具体的な指導内容、留意点】

- ・児童玄関前のアスファルトにソーシャルディスタンスを意図した円形を並べて描き、その一つ一つにメッセージや図を描く。
- ・最高学年として、その作品を見た下級生や地域の方が楽しい気持ちや、明るい気持ちになれるような内容を考えさせる。

<校舎の窓にも思いを込めたメッセージを色とりどりに描いた>

【成果と課題】

導入で鑑賞の学習を行い、東日本大震災時に被災地で手作りの鯉のぼりが飾られたとりく みや、ゲルニカ、アイヌ文様や古くから伝わる和柄に込められた思いを知る学習を行った。 児童はそれぞれに思いを込めた図柄を考え、熱心に描画していた。

企業の協力を得て、大量のチョークを無償で提供していただけた。環境に配慮したチョークから環境問題について学び、企業理念からキャリア教育への発展も図ることができた。

また、市の広報やテレビでも取り上げていただき、児童が大きな達成感を感じられる取組 となった。

(4) レポートに対する部会員の声

- ・他教科との連動を意識している点や、現代社会の問題点を考えるきっかけになっている点がよい。
- ・自然の素材を使い材料費の円、なのに子どもたちの創造性を刺激する教材ですね。
- ・コロナ禍の中でのメッセージ性が伝わる取組だった。
- ・ソーシャルディスタンスアートという視点がよい。地域との連携もよい。

Ⅲ. 教育課程研究

1. 研究の経過

教育課程研究委員を中心に、教育課程展開編や教科書に沿った実践を収集する取組を行っている。部会員のレポートなども参考にしながら、実践例を蓄積し、まとめていく。カリキュラムに生かす上での課題や、題材の解釈について等、意見を求めている。

2. 研究の成果・課題

学習指導要領改訂のポイントを踏まえつつ、変更点に配慮したカリキュラムの設定と、実践例の収集に努めていきたい。小・中間の連携も図り、充実した研究を行っていきたい。

Ⅳ. 実技·理論研修会

今年度は実施できなかった。

V. 部会研究の成果と課題

1. 成 果

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、実施できる研究内容が大きく限定される年となった。各市町村で工夫をし、できる範囲の実践・実技研修を行ってきたが、限界も感じた。また、このような状況下でも新学習指導要領の実施に向けて、教科としての性性を踏まえ、改訂部分を意識した教材や授業展開などを、意識し実践されたことは大きな成果と言える。……、「新型コロナウイルス感染症の下での授業づくり」を、紙面上ではあるが交流できたことは、大きな成果ととらえている。

2. 課 題

研究内容が多岐にわたることが、ここ数年の研究課題となっていた。研究仮説に関わる研究内容を、毎年「重点課題」として研究することは、研究内容の複雑化へとつながるが、今年度の限られた活動の中で、その点について研究としての指摘を受けることはなかった。

部会活動の中心が、「実践レポートの交流」となったが、焦点を絞った内容となったことで、「より実践的な内容」・「現実に即した内容」へとシフトチェンジすることができた。今年度の課題としては、「レポートの提出数の少なさ」や「役員の負担の多さ」などが出された。部会員の主体的な参加を呼びかけるとともに、今後の新たな研究の充実を図っていく。

(文責 佐藤 博行)